

Q
31

脳画像検査はなぜ必要なのですか？

A

point

- ▶ 脳画像検査は認知症の初期鑑別診断には欠かせない検査です。
- ▶ 保険適用の検査に頭部CT，頭部MRI，脳血流SPECT，アミロイドPETが，自費診療ではFDG-PETがあります。
- ▶ X線検査，磁気検査，核医学検査それぞれ長所・短所があるので，併用して診断に役立てます。

なぜ必要か？

認知症は中枢神経系の疾患なので，脳画像検査は認知症原因疾患の鑑別診断および進行の程度を把握するのに必要不可欠です。

X線検査

- 頭部CT，頭部単純X線：形態画像（保険適用）

脳神経関係の診療科ならクリニックレベルでも保有しています。

磁気検査

- 頭部MRI：形態画像（保険適用）

脳神経外科ならクリニックでも保有，その他の診療科なら病院レベルで保有しています。

核医学検査

- 脳血流SPECT, アミロイドPET: 機能画像 (保険適用)
地域基幹病院や大学病院レベルで保有しています。
- FDG-PET (糖代謝PET): 機能画像 (自費診療)
大学病院や認知症関係の研究所レベルで保有, 脳ドック (自費診療) で採用している施設もあります。

鑑別診断

脳血管障害の有無, そして脳萎縮の部位と程度を判定するのにCTもしくはMRIが適切です。しかし, より早期に機能低下部位を判定するためには脳血流SPECTが必要です。初期の鑑別診断時には両者の併用が望ましいです。

アミロイド β 蛋白蓄積の有無を明らかにするアミロイドPETは発症20年前からアルツハイマー病の診断が可能です。

進行程度の把握

進行の度合いは萎縮の変化でも判定できますが, 脳血流SPECTがより鋭敏です。

病因・病態の解明

FDG-PETは空間解析度が高いので, 脳血流SPECTよりも詳細に機能低下部位を把握できます。

包括的アプローチ

診断は画像検査だけに頼らず, 総合的に行うことが重要です。